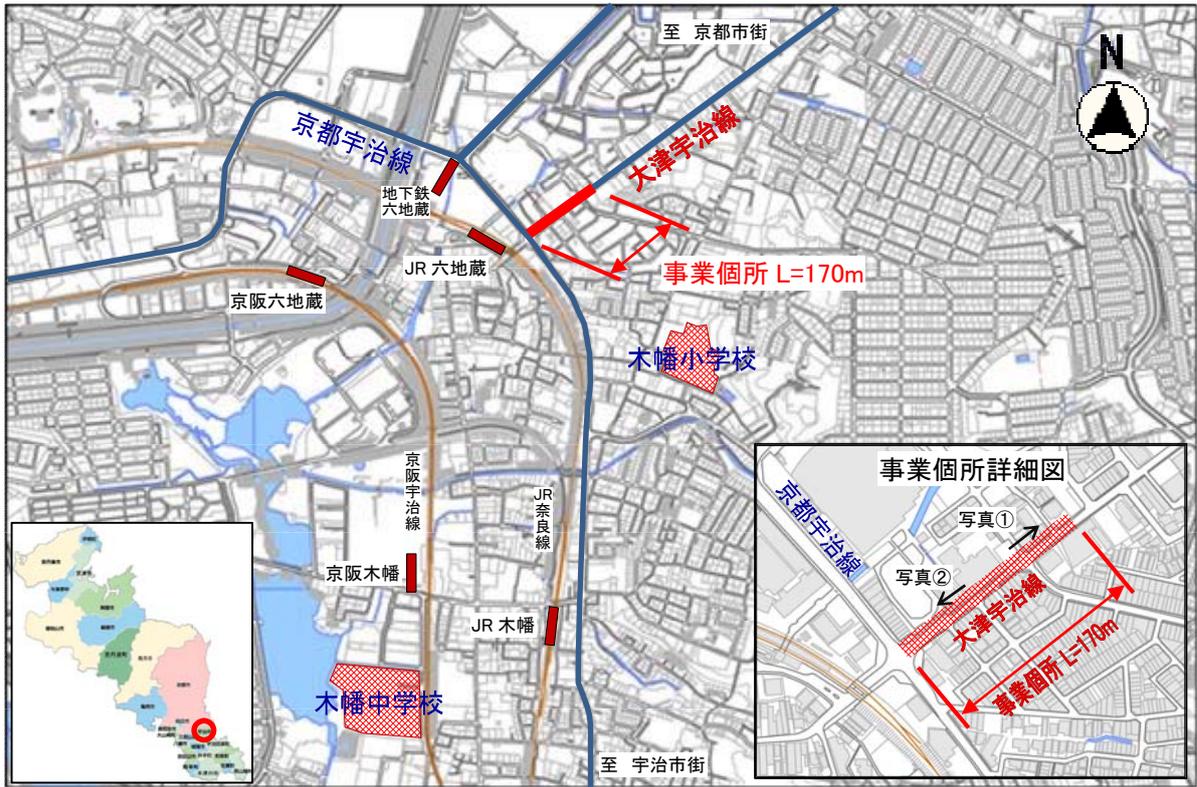


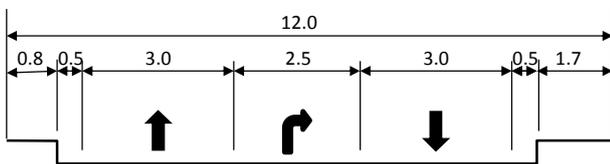
## 道路事業事前評価調書

路線・河川等名	主要地方道 <small>おおつうじ</small> 大津宇治線	事業名	防災・安全交付金事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京 都 府	事業箇所（区間）	宇治市 <small>ろくじぞうまちなみ</small> 六地藏町並 地内		
事業概要	目 的	主要地方道大津宇治線は、滋賀県大津市追分町を起点に京都府宇治市六地藏町並に至る京都市域と宇治市域を南北に結ぶ主要な路線である。本事業箇所は、木幡小・中学校の通学路となっているが、バス路線で交通量が非常に多く、また、鉄道駅も近いことから朝夕の通学・通勤時には歩行者・自転車・バス乗降客が輻輳し非常に危険な状態となっており「通学路交通安全プログラム」に基づく要対策箇所となっている。このため、本事業により歩道の拡幅整備を行い、歩行者・自転車の安全を確保するものである。			
	内 容	整備延長：L＝ 170 m 現況幅員：W＝12.00 m 2車線 歩道：両側0.8 m、1.7 m 計画幅員：W＝14.75 m 2車線 歩道：両側2.5 m 事業費：約4.0億円			
	上位計画等	明日の京都（中期計画） 社会資本総合整備計画 通学路交通安全プログラム（宇治市）			
	スケジュール	着手年度：平成27年度 完成目標：平成31年度			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自動車交通量 8,094台/日</li> <li>○ 自転車交通量 533台/日</li> <li>○ 歩行者交通量 670人/日（H22）</li> <li>○ 当該地には、商店街やバス停、近隣に鉄道駅もあるが、歩道が狭小であるため朝夕の通勤・通学時間帯には自転車及び歩行者が輻輳し、円滑な通行ができない状況である。</li> <li>○ 木幡小・中学校の通学路でもあることから、通学路交通安全プログラムの要対策箇所に位置付けられており、早期の歩道整備が求められている。</li> </ul>			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歩道の拡幅により通学路の安全性を向上させ、歩行者及び自転車通行を円滑にする。</li> <li>○ バリアフリー構造の歩道とし、誰もが安心・安全で円滑に移動できる歩行空間を確保する。</li> <li>○ 交差点改良により、北側交差点に右折車線を設け、円滑な自動車交通を確保する。</li> </ul>			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バリアフリー構造の歩道として整備し、歩行者及び自転車の交通環境が改善される。</li> <li>○ 歩行空間の整備により商店街等を中心とした地域の賑わいの創出を図る。</li> <li>○ 二次製品の使用を促進し、交通規制日数の削減等コスト縮減を図る。</li> </ul>			
総合評価	本事業は、通学路における児童及び歩行者・自転車の安全性の向上を図るために、新規着手の必要がある。				

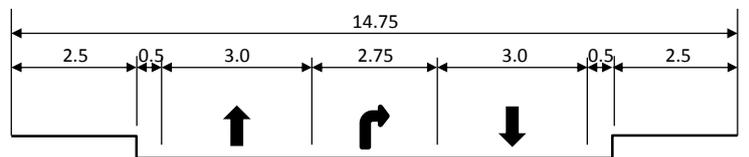
【位置図】



【現況横断図】（単位m）



【計画横断図】（単位m）



【現況写真】



通学路となっているが、歩道がない箇所もあり歩行者・自転車の安全が確保できていない



通学路となっているが、歩道の幅が狭く、商店の入口やバス停もあることから歩行者・自転車の安全が確保できていない

わ  
『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成27年 5月 1日	
		作成部署	建設交通部道路管理課	
事業名	主要地方道大津宇治線 防災・安全交付金事業	地区名	宇治市六地蔵町並 地内	
概算事業費	約4.0億円	事業期間	平成27年度～平成31年度	
事業概要	歩道拡幅及び交差点改良 L=170m W=6.0(14.75)m			
目指すべき環境像	当該箇所は、商業施設や鉄道駅に隣接した市街地であり、駅へのアクセス道路及び通学路であることから多くの通学児童等の歩行者や自転車が利用する道路である。このため、歩行者や自転車の安全で円滑な交通を確保し、都市環境の改善を図るものである。			
関連する公共事業	六地蔵サポート道路（宇治市）			
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	歩道が狭く、歩道からはみ出た歩行者や自転車により自動車交通に支障が生じている。また北側交差点に右折レーンがなく交通渋滞していることから、CO <sub>2</sub> 排出量の低減を図る必要がある。	歩道拡幅及び右折レーンの設置により、自動車の円滑な交通を確保し、CO <sub>2</sub> 排出量の低減を図る。	4
	地形・地質			
	物質循環(土砂移動)			
	野生生物・絶滅危惧種			
	生態系			
	その他			
生活環境	ユニバーサルデザイン	当該箇所は通学路であり、また商業施設や鉄道駅に近接しているが、歩道が狭小であり、安全な歩行空間を確保する必要がある。	バリアフリー構造の歩道を設置し、誰もが安全に通行できる歩行空間を整備する。	5
	水環境・水循環			
	大気環境			
	騒音・振動	事業の実施により、騒音・振動の発生が予測されるため発生を抑制する必要がある。	早朝や夜間の工事を極力避け低振動・低騒音の建設機械を使用する。	4
	土壌・地盤環境			
	廃棄物・リサイクル			
	化学物質・粉じん等			
	電磁波・電波・日照			
	その他			
地域個性・文化環境	景観	一部歩道がなく、また、歩道幅員が統一されていないため雑然とした景観となっている。	縁石等で区分され、幅員が統一された歩道等の整備により、街並みの景観向上を図る。	4
	里山の保全			
	地域の文化資産			
	伝統的行祭事			
	地域住民との協働			
	その他			
外部評価				